

史詩式的舞劇

《賽德克之歌——風中緋櫻》

敘事詩的舞蹈劇『セデックの歌——風の中の緋桜』

An Epic-Like Dance Drama, *The Song of Seediq: Tanah Sakura*

文 | 鄧相揚 (《風中緋櫻》作者) 圖 | 黃仁男 (台中縣大里市青年高中舞蹈科合作攝影師)

日本語翻譯 | 石村明子 (政治大學民族學系碩士生)

在恆久台灣歷史的舞台裡，賽德克Seediq族人不曾以文字去寫歷史，卻是以無數的生命去創造歷史，「霧社事件」就是其中之一。

「霧社事件」是賽德克Seediq霧社群Tkdaya族人，不堪日本殖民地政府極權統治，反奴役、反霸權、寧為玉碎之大無畏精神，展現族人恪遵祖先遺訓、維護Gaya，締造了台灣原住民族群在日治時期最負盛名的抗日事件；莫那魯道Mona Rudo和抗日烈士反暴政、爭自由、爭人權的精神名留青史，令人敬仰。



狩獵歡宴呈現霧社原住民族在日本殖民前，過著自給自足的生活。

狩の宴は、日本の植民地以前の霧社の原住民族が自給自足の生活をしていることを表現している。

悠久なる台湾の歴史という舞台で、セデック (Seediq) 族は文字で歴史を記すのではなく、無数の命をもって歴史を創造してきた。

「霧社事件」もそのうちのひとつである。

「霧社事件」は、セデック族霧社群タクダヤ (Tkdaya) の人びとが、日本植民地政府の全体主義統治に耐えかね、恐れを知らぬ反奴隷・反霸權・玉碎の精神をもって、先祖の遺訓に従いガヤ (Gaya) を守って展開した事件で、日本統治時代の台湾原住民族による最も名高い抗日事件である。モーナ・ルダオ (Mona Rudo) や抗日烈士の反暴政・自由や人權の獲得に基づく精神は後世に名を残し、人々に尊敬されている。

「霧社事件」からすでに80年経つが、その研究や解釈は台湾史においても盛んな分野であり、台湾や日本の各界から絶えず注目を浴びている。例えば今年6月には日本台湾学会により「台湾原住民と霧社事件国際シンポジウム」が行われ、台湾では同じ頃に国立台湾歴史博物館による「霧社事件オーラル・ヒス



演出日本殖民前，霧社小國寡民的生活面貌。
日本の植民地以前の、小国霧社の生活の様子を演出。

「霧社事件」距今已近80年，它的研究與詮釋仍是台灣史的顯學，在台灣和日本一直受到各界的矚目，如今年的6月間，日本台灣學會舉辦「台灣原住民與霧社事件國際研討會」，而在台灣，國立台灣歷史博物館亦在此時，進行「霧社事件口述歷史調查研究與影像記錄計畫」，知名導演魏德聖正如火如荼地進行《賽德克·巴萊 Seediq Bale》電影的籌拍工作，這些都說明了1930年所發生的「霧社事件」，它不僅具有歷史學、民族學、人類學的研究價值，同時也是文學創作、表演藝術的最佳題材。

近20年來，台灣的藝術創作有著非凡的成就，但在大型舞劇的創作和展演上，則呈現衰退的現象；有人說大型舞劇的舞者動輒百人，耗費更是龐大，沒有人願意甘冒這個風險；也有人說台灣沒有好的文學腳本，所以只能表演一些脫離社會實象與生活經驗的肢體抽象舞蹈而已，顯然這些說法有待商榷，其實台灣的自然環境、歷史、族群、文化……，蘊涵了無數

トリー調査研究と映像記録計画」が進められ、著名な映画監督の魏德聖氏は溢れんばかりの勢いで映画『セデック・バライ (Seediq Bale)』の撮影に取り組んでいる。これは、1930年に起こった「霧社事件」が、歴史学・民族学・人類学研究にとって価値があるというだけでなく、創作文学や表現芸術にとっても優れた題材である、ということをも意味している。

ここ20年ほどで台湾の創作芸術は非凡な成果を挙げているが、大規模な舞踏劇においては衰退する傾向にあった。100人規模のダンサーを動員し、膨大な費用がかかるというリスクを犯してまで、大規模な舞踏劇を演じようとする人はいないだとか、台湾には優れた文学脚本がないため、社会の現実や生活経験から乖離した抽象的な身体表現によるダンスぐらいしかできない、などと言われるが、このような見解については議論の余地があるものの、台湾の自然環境、歴史、エスニックグループ、文化……な



舞劇《賽德克之歌》的宣傳海報，攝於初春冷冽的合歡山。
舞蹈劇『セデックの歌』の宣伝ポスター。まだうら寒い初春の合歡山で撮影した。

的藝術創作元素，值得我們去挖掘與發揚。

台中縣青年高中舞蹈科與台學青年舞團，這幾年來以《2006舞躍台灣紅》、《2007印象·水沙連》、《2008發現福爾摩沙——平埔詩歌》等作品，為年度的公演舞碼，就是突破了台灣表演藝術的藩籬，將台灣的多元族群與文化，透過大型舞劇的創作形式將它展演出來，因而獲得各界的喝彩與讚譽。



敬酒風波是霧社事件的民族衝突導火線。
乾杯事件が霧社事件の民族衝突を引き起こす導火線となった。

どは創作芸術の要素を無数に含んでおり、発掘し発展させるのに値するものである。

台中県青年高級中学舞蹈科と台湾青年舞団はここ数年、『2006舞躍台湾紅』、『2007印象·水沙連』、『2008フォルモサ発見——平埔詩歌』などの作品を年度公演プログラムとして、台湾のエスニックグループや文化の多様さを大規模な創作舞踏劇により表現し、台湾の表現芸術の壁を乗り越え、喝采と賞賛を得た。

『2006舞躍台湾紅』は台湾の民族・文化・縁日をテーマとし、台湾現代民族音楽の先駆とも言える郭芝苑の作品を背景に、漢民族社会の文化の真髓と台湾という土地への永遠の感情を演出したものである。

『2007印象·水沙連』は水沙連日月潭の自然の景観やサオ族の伝説などサオ族の文化の優美さを表現したものである。特に「日月潭の人魚姫」では、日月潭の資源を永続的に保護するサオ族の知恵を描写している。また、「サオ

《2006舞躍台灣紅》係以台灣的民俗、文化、廟會為題材，採用台灣現代民族音樂的先驅郭芝苑的作品，舞出漢民社會的文化精髓，以及對台灣這塊土地的永恆情感。

《2007印象·水沙連》展現了邵族的文化風華，包括水沙連日月潭的自然美景、邵族的傳說故事，尤其〈日月潭魚姬〉這一齣舞碼，更描繪了邵族對日月潭永續資源保護的睿智；原創舞劇則以〈邵族原鄉——逐鹿傳奇〉為主題，舞出了「邵族年祭」的神聖樂章。

《2008發現福爾摩沙——平埔詩歌》的內容以台灣的山、海、土地、人民為創作元素，舞出福爾摩沙的美麗真章；而歷史舞劇則以「平埔詩歌」為主題，透過原創，舞出平埔族群的文化內涵，詮釋了台灣平埔族群的歷史遭遇，和對未來「荊桐花開」的憧憬。

2009年他們再接再厲，將拙作《風中緋櫻》一書，改編為《2009賽德克之歌——風中緋櫻》，以大型舞劇的形式，融匯傳統與現代的肢體美學，忠實呈現了「霧社事件」的史實，更充分地演繹《風中緋櫻》一書的劇情及精髓，是一齣強而有力的史詩舞劇。

這幾年來，台中縣青年高中舞蹈科與台灣青年舞團的成果不容小覷，特別他們舞出了台灣舞蹈藝術史上璀璨的另一舞章，對於台灣在地的舞蹈論述，和肢體文化的知識建構，扮演著舉足輕重的地位。◆



象徵族人堅持民族傳統，抵抗外侮，走過彩虹橋回歸祖靈。民族的傳統を堅く守り、侵略に立ち向かった人々が虹の橋を渡って祖靈の元へ帰っていく様子を象徴している。

族のふるさと——鹿追伝奇」というテーマのオリジナル舞踏劇では、神聖な楽章である「サオ族の年祭」を演出した。

『2008フォルモサ発見——平埔詩歌』は台湾の山、海、土地、人を創作の要素とし、フォルモサ本来の美しさを演出した。また、「平埔詩歌」をテーマとした歴史舞踏劇は、平埔族の文化的な内面を演出し、台湾平埔族の歴史的環境と「デイゴの花が咲く」未来への憧れを表現した。

さらに努力を重ねた2009年に披露されたのは、拙著『風中緋櫻』を改編した大規模舞踏劇『2009セデックの歌——風の中の緋桜』で、伝統と現代の身体美学を融和し、「霧社事件」の史実を忠実に表現し、『風中緋櫻』の筋書きと真髓を十分に展開し、力強い叙事詩的舞踏劇に仕上がっていた。

この数年、台中県青年高級中学舞踏科と台湾青年舞団は見逃せない成果を挙げた。特に台湾の舞踏芸術史において輝かしい一章を新たに築いたことは、台湾の舞踏における語りや身体表現文化の知識の確立において肝心の役割を果たしたといえる。◆